

新城市民病院での研修を終えて

名古屋第一赤十字病院

私が新城市民病院で働き始めたのは、1月の初めでした。そこからの研修は驚くほど早く過ぎていき、気付けば1ヶ月の研修を終わろうとしています。

新城では、名古屋では体験できなかったことをたくさんさせていただきました。特に印象深かったのは、訪問看護・訪問リハビリ・診療所・老健・助産所などのサービス・施設の見学です。病院の中とは異なる、人々の「生活の場」での姿を垣間見ることができました。一人の人間と、地域、住まい、ご家族、医療スタッフ・看護スタッフとの関係性や連携を見させていただいたことによって、我々が病院内で行っている医療活動が、地域活動の一部であること、病院から地域に戻っていく患者さんの先の生活まで見通したものでなければならないことを強く感じました。急性期疾患を扱う病院で働き、考え方が「目の前の患者さんの疾患を治し、無事に退院させること」で止まっていたのですが、患者さんには退院後の生活があるのだと、そんな当たり前のことを改めて考えられるようになりました。具体的には、退院後も生活に困らないサービスを受けられるよう介護保険制度などを駆使すること、再発予防のために薬を続けてもらうための工夫（例えば薬の種類を増やしすぎない、飲みやすい形に変える）、かかりつけ医との連携、食事や運動といった生活の指導など、「日常生活」に重点を置いた考え方が、我々医療スタッフに求められていたものだと感じることができました。

1ヶ月間お世話になった総合診療科の先生方は、そんな理想的な医療を実際に行われている方々でした。急性期疾患から慢性期疾患まで、様々な問題を抱える患者さん一人一人にまっすぐ向き合い、最善の形を模索し続けておられました。一緒に外来や入院患者さんを担当させていただき、その医療を間近で見ることによって、「地域に、人に求められる医療の形」を見ることができ、また、自分自身が目指す医療を考えるきっかけとなったように思います。

まだまだ私は経験が浅く、学ぶべきことだらけです。しかし日々の慌ただしさを言い訳にせず、常に「地域社会に求められている医療とは何か」を考えながら、一人の医療者として精進していけたらと思っています。ご指導いただきました総合診療科の先生方、いつも優しく接して下さった看護師さんをはじめとした院内関係者の方々、そしてお話をさせていただいた新城のみなさま、本当にありがとうございました。